

# 高知県立四万十高等学校

中山間地域再興ビジョン第2回検討委員会 (R5.7.14)  
高知県立四万十高等学校 西山 貴久

# 1 四万十高校の現状

- ・ 学校の沿革
- ・ スクール・ミッション
- ・ 入学者の状況
- ・ 卒業生の進路状況



# 2 四万十高校の魅力化の取組

- ・ 生徒数確保に向けて
- ・ 教育活動の充実に向けて

# 3 今後に向けて

- ・ 「選ばれる高校」になるために
- ・ 持続可能な学校づくりにおける課題

## 学校の沿革



- 昭和29年 窪川高校大正分校（定時制林業科）として開設
- 昭和36年 定時制の課程を全日制の課程と改編
- 昭和38年 普通科を併設
- 昭和40年 校名を大正高等学校に改称、独立校として発足
- 昭和57年 林業科を閉科
- 平成11年 校名を四万十高等学校に改称、自然環境コース設置
- 平成13年 連携型中高一貫教育を開始
- 平成14年 寄宿舍（木の香寮）新築工事竣工
- 令和元年 地域みらい留学に参画

## スクール・ミッション（案）



連携型中高一貫教育校及び「地域みらい留学」  
参画校として地元及び県内外の中学生を受け入れ、  
四万十川中流域の豊かな自然と心温かい地域を学  
びのフィールドとして、一人一人の個性を伸ばす  
少人数教育、「人と自然の共生」を学ぶ自然環境  
教育、持続可能な地域づくりを目指す地域連携活  
動を実践することによって、豊かな感性をもち、  
地域や社会の核となる人材を育成する学校。

## 生徒数確保に向けて



### ・ 連携型中高一貫教育の推進

中高教員による交流授業（高⇒中 13時間、中⇒高 12時間）

中高教員合同の教科部会の研究活動

部活動・ふるさと学習発表会等での連携

### ・ 地域みらい留学への参画

参画5年目、本年度の県外生比率は約30%

学校魅力化コーディネーターによるサポート

学校広報活動は、生徒参加がカギ？！

## 2 四万十高校魅力化の取組

# 生徒数確保に向けて

## ・四万十町の支援

町営塾の運営

通学費用の補助

給食の提供

入学祝い金の交付

寮運営の支援

など



## 四万十町 窪川高校・四万十高校 応援事業

四万十町では、「町の将来を担う子どもたちの育成や、学びの場の確保」を目的に、平成28年度から町内の県立高校（窪川高校・四万十高校）の教育活動の支援や、両校に入学・通学する生徒の支援（町営塾の設置）を行っております。

今回、町内外問わず窪川高校・四万十高校に通学する生徒やその世帯への支援策を下記のとおりまとめましたので、各種のご参考にいただければ幸いです。

### 《 支援事業 》

- ① ICT教育推進のため、両校の生徒に対し家庭でも使用できるタブレット（iPad）を無償貸与しています。
- ② 放課後の学びの場として、両校の生徒が定額（2,000円/月）で通える町営塾「じゆうく。」を設置しています。
- ③ 公共交通機関を利用する生徒に対し、町内3,000円・町外5,000円までの実質負担で通学できる助成があります。
- ④ 窪川高校・四万十高校には学食がないため、令和3年度より給食（1食300円程度）の提供をしています。（希望者のみ）
- ⑤ 窪川高校・四万十高校の入学者（町内・町外問わず）の負担軽減を目的に、入学祝い金として10万円を交付いたします。

問い合わせ先：四万十町役場人材育成推進センター（担当 横山）

☎ 0880-22-3163 mail 103060@town.shimanto.lg.jp

## 生徒数確保に向けて



- ・ 寮の運営（木の香寮定員20名、もりだば寮定員6名）



四万十町に住民票を移した場合、月額 36,000円



## 教育活動の充実に向けて

### ・ 少人数教育

習熟度別授業や中高交流授業、遠隔授業等を取り入れ、少人数の講座で生徒一人一人の志望や学力に応じた授業を実践。町営塾とも連携。

### ・ 自然環境教育

自然環境コースにおける本校独自の科目設定（「森と川と海」「環境学探究」等）や自然環境部の調査活動、四万十川一斉清掃、県外研修等をとおして、環境保全に主体的に取り組む意識と態度を育成。

### ・ 地域連携活動

四万十探究（総合的な探究の時間）での学び等を柱として、生徒の社会性の育成と地域貢献の両立を目指し、持続可能な地域づくりのための地域連携活動を実践。

★ ミニ文化祭を計画（11/18予定。「学校から町へ/学びを喜びに」）





## 「選ばれる高校」になるために

### ・地域の中学生の高校選択の理由は？

- ①自宅から通学したい
- ②少人数の安心できる環境で高校生活を送りたい
- ③勉強面のサポートが手厚い高校で、大学進学を叶えたい
- ④新しい友人を得て、多様な価値観や考え方に触れたい
- ⑤学校外でも、いろいろな活動にチャレンジしたい
- ⑥工業や商業など専門的な学習をして、就職に結び付けたい
- ⑦希望する部活動に所属して、仲間と切磋琢磨したい
- ⑧今までの固定化した人間関係から抜け出したい
- ⑨都市部の便利な環境で生活してみたい



## 「選ばれる高校」になるために

- ・本校の魅力 = 地元生と県外生が混在する多様性

～地域みらい留学生による刺激を学校や地域の活性化につなげる～

- 県外難関大学等、多様な進路希望
- 自然が好き、生き物が好き等、多様な個性
- 地域の魅力に対する客観的な視点

(地域みらい留学生の「理想の田舎を見つけた」等の発言)

- 地域連携活動、町営塾の活動、学校の情報発信等に積極的
- 部活動等における新しい活力 (音楽部、自然環境部等)

▼寮定員の充足率は現在約80%。今後の受け入れ体制は検討が必要。

▼地域みらい留学生の生活支援・健康管理等には課題もあり。

**生徒が最高の  
財産!**

3 今後に向けて

## 「選ばれる高校」になるために



・ これからの方向性は……

「四万十でも学べる」

⇒ 多様性への対応

「四万十でしか学べない」

⇒ 独自性の追求

「四万十だから学べる」

⇒ 普遍的な教育活動の最大限の充実



## 持続可能な学校づくりにおける課題



- **地域内外の「交流」が重要**
  - ⇒ **地域外の生徒受け入れの環境整備**  
寄宿舎等のハード面、生徒支援のソフト面  
教育活動の維持・充実のための教職員配置
- **生徒数の減少は全国的課題**
  - ⇒ **生徒数の確保を目的化しない**  
**長期的ビジョンの必要性**